

e-ビーフNEWS 北の牧場から

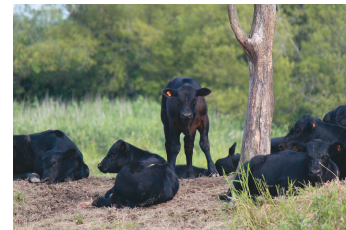
September 2022

月刊情報誌
No.105発行
特定NPO環境リサイクル肉牛協議会
〒080-0351
北海道河東郡喜望峯町字然別
北5線西25番地2
FAX 0155-40-7301

十勝の秋の始まり

晴れと雨が交互に続く なかなか晴れが続かない 畑が一方向に乾かない パドックもぬかるみ状態
 気が付かないうちに、日が短くなり 朝5時近くになり明るくなる。夕暮れは6時には薄暗くなりかけている。
 食用のトウモロコシは、食べると固くなりかけ腹にズシンと来る。枝豆も硬さが残り、ついに飽きてきた。市街地でも
 パンパンに入ったトウモロコシを野生動物（不明キツネか）がかじってゆく 周りの畑地にはいくらでもあるのに、なぜ
 この狙うの・・・

収穫の秋 トラクターにハーベストを付け動き始め、ジャガイモを満載したファームダンプが行き来するはずだが、雨
 のぬかるみで農家が躊躇。空とのやり取りが続く 牧場の牛たちも、ぬかるんだパドックに出られず困惑気味。晴れれ



活動のお知らせ

- 10/13(木) 日本産肉研究会 第30回学術集会 シンポジウム「飼料価格高騰の中、持続可能な食肉生産を考える(案)」オンライン開催(Zoom)
 13:00~17:00 「昨今のわが国の飼料事情からみた畜産政策(仮題)」関村 静雄氏(農林水産省 畜産企画課)
 「日本の食肉産業の現状と未来」甲斐 諭先生(中村学園、九州大学名誉教授)
 「エコフィードの活用(仮題)」青山 次郎氏(青山商店)
 「エコフィードを給与した肉牛肥育(仮題)」熊谷 元先生(京都大学)
 「日本産肉研究会が提案する持続可能な牛肉評価基準検討の第一歩(第三弾)」
- 11/10(木) 日本産肉研究会事務局第12回 北海道肉専用種枝肉共助会 (株)北海道畜産公社 十勝工場
 11/10(木) 第19回 資源循環型肉牛生産シンポジウム2022 とかちプラザ2階 視聴覚室
 13:00 シンポジウムテーマ「脱炭素社会における畜産を考える」
 基調講演「脱炭素社会における資源循環型肉牛生産(仮)」北海道大学名誉教授 波多野隆介氏
 話題提供1.「 (仮) 生産者 氏
 話題提供2.「農地を守るう/カバークロッププロジェクト」(仮) 東都生協商品部 部長補佐 吉澤 正義氏
 話題提供3.「肉牛専用種枝肉共助会の成績について」
 司会 帯広畜産大学 教授 口田圭吾氏と受賞生産者

NEWSほか読み

- 22年転作意向 飼料米が過去最高更新8/1:飼料高助かる
- 乳価 期中内改定が全国に 酪農家の苦境反映8/1:内容が今一
- JA全農 多収米種子生産法人に出資 事業本格化へ8/2:種の確保
- 林野庁 日本開発のシイタケ種菌が中国に派出 菌床逆輸入
8/2:根元が流れる
- 厚労省審議会 最低賃金31円アップ答申8/3:利益の配分ができるのか
- 農研機構、生産法人、商社連携でタマネギ全国生産供給化へ
8/4:地産地消全国区
- ホクレン 飲用乳乳価11月から10円上げ 加工乳価は交渉中
8/5:時差あり
- 飼料作物 初の100万ha 飼料米生産で8/5:全耕地面積の1/4か
- 22年前期 1次産品輸出が6%増 乳製品、コメが好調8/6:まだまだ可能性
- 21年食料自給率38%で微増 麦、大豆増加8/6:でもねー
- 熊本県農研センター 乳牛育成飼料にもみサイレージでコスト減
8/9:もみの消化
- 国際収入22年上期 赤字3.5兆円 8年ぶり低水準8/9:日本大丈夫?
- コメの通販が増加 21年度12万t 巣ごもりで宅配需要増8/10:重いしね
- JA鹿児島 鶏のフン25%減飼料を開発8/10:エネルギー効率向上なのか
- 21年度国産チーズ生産量 最多の4.5万tシェア2割8/12:育つか
- Jフレジットに、牛アミノ酸飼料を追加8/12:脱炭素貢献
- 政府 温暖化対策の目標遠く 森林・農地の炭素吸収量が減少
8/13:実態把握
- 昆虫ビジネス研究プラットフォーム(iBPF) コオロギの食品・飼料用の
- 安全ルールを作成8/15:このようなところがあるんだ
- 国産の長粒米に人気 外食向けに販路拡大8/16:コメの多様化必須
- パルテック キノコの廃菌床で牛用飼料開発8/16:活用循環飼料
- 農水省 20年度自給率カロリーベース 北海道217%4年連続
8/18:食料基地
- 国産小豆需要が増加 国際相場高騰長期化へ
8/19:あれだけ低迷していたのに
- 農水省 21年農業物価指数 生産資材7%上げ 過去最高8/20:まだ序の口
- 栃木 資材高騰で耕畜連携推進会議発足
8/20:この機会に真剣に取り組もう
- 生乳生産7月 0.4%増 前年度並みに回復 都府県伸びる
8/22:例年暑いのに
- 農水省 16/20対比 JAS有機面積36%増1.4万ha8/23:まだまだ微小
- WFP 世界の食料困窮者3.4億人 過去最高8/24:世情
- 首相 原発新設へ方針転換8/25:過去を忘れるな
- 通販売り上げ 21年度11兆円 コロナ下で食品・電化製品伸びる
8/25:流通変化
- ホル雄子牛相場が暴落 北海道9割安 肥育農家が飼料高騰で買控え
8/27:影響拡大
- 東京転入1~6月 コロナ前より下回る 地方分散へ
8/30:人の流れが着実に変わる

東京直近NEWS (8/29 Shi-REPORT)

ホルス

相場低迷状況継続販売状況は回復しておらず引き続き低迷状況続く。
 ヒレは慢性的に欠品も、他部位切落しモモ一部で余剰案内あり。
 冷凍パーツも一部バラは荷余り感あり。
 直近で一部カタロース、スネの問合せ出てきているが要請価格が安価で
 一時の経産並みの問合せ。
 出回り頭数は相変わらず少ないがそれ以上に販売状況が悪いので、スポッ
 トでもアイテム出回ってきている状況。

経産牛

経産牛相場は低迷続いており横ばい基調。上々頭数は変わらず前年並み維持し
 ているが引合弱くコロナ感染含めて工場稼働も落ち込んでおり生体の荷余り感
 出てきている。販売は低迷しており、部位と顧客によってバラツキ感あり。全体キ
 ルドは一服しているが、冷凍は引合変わらずの印象。国産牛ホルス肥育と輸入牛
 の動向が不透明であり、酪農家の動向もコストも上昇続けており先行き不透明。
 挽き材は一定数の発注維持しており、産地も大きく在庫過多の情報は無いため
 今後大きな投げ売り可能性は少ないか。スジ関係の季節部位問合せが出てきた

1.畜産技術806号(2022.7) 続き

(1)技術情報:新しい和牛受精卵管理システムの開発-RFIDタグを活用した和牛遺伝資源の保全に向けた取り組み(全農畜産生産部)

和牛の精液・受精卵の不正輸出生産防止に向けてRFID(近距離無線通信でデータ記録タグを非接触で情報交換する技術)タグを装着し、和牛受精卵ストローを生産管理するシステムを開発しました。-196℃の液体窒素中のストローを集合検知できる利点を確認されましたが、タグの読み取り機器やアンテナ、専用キャニスターなどの高額の高額な周辺機材の整備が今後の課題です。

(2)国内情報:全国肉牛事業協同組合におけるSDGsの取り組み(酒井豊,全国肉牛事業協)

日本全体のGHG発生に占める畜産分野からの発生量は1%程度で、主なものは牛からのCH₄発生でその削減が取り組みの対象とされています。輸入米国牛肉より国産牛肉のCH₄削減策の対応が不十分と指摘されることを懸念しています。

(3)海外統計DTA:世界の2022年食肉需給見通し(USDA)

1牛肉 2022年の世界の牛肉生産は豪州、ブラジル、インド、メキシコの実産増により+1%増。と畜増、枝重の安定などの要因が+方向。カナダ(干ばつ)、米国(頭数減)、EU(収益性悪化)生産減。世界の牛肉輸出は東アジア需要増加で増加する一方でNZやメルコスール(南米南部共同市場)の一部では減少。米国は牛肉の生産・輸出で減少傾向にあるが、世界最大の牛肉生産国、輸出世界2位の地位は維持。

2.肉用牛研究会報No.113(2022.6)

(1)黒毛和種肥育牛における摂取飼料中コバルト(Co)含量とビタミンB12栄養指標調査によるCo要求量の推計(築谷愛未他、京大)

牛のビタミンB12はルーメン微生物により合成され、その合成は飼料中のCo含量に依存し、黒毛和種肥育牛のCo要求量は配合飼料の質や粗濃比などにより異なります。そこで濃厚飼料多給の肥育中・後期の黒毛和種肥育牛の血中VtB12やその栄養指標とされるメチルマロン酸濃度を測定しました。その結果、黒毛和種肥育牛のCo要求量は日本飼養標準(0.11mg/kg乾物)より高い0.25mg/kg乾物が必要と思われました。

(2)黒毛和種去勢牛の肥育期間中血中ビタミンA濃度の変化
様相と枝肉切開画像情報との関係(撫年浩他、帯畜大)

黒毛和種肥育牛にVtA無添加の濃厚飼料を28ヵ月齢まで、VtAの欠乏症回避の700IU/日添加濃厚飼料を26ヵ月齢まで給与し、血中VtA濃度の経時変化と屠畜後枝肉の画像解析情報(30項目)との相関関係などを検討しました。その結果、血中VtA濃度が高いと脂肪に関する画像情報が増大し、筋肉の増大への影響は小さく、VtAの血中濃度が低いと黒毛和種肥育牛の脂肪交雑は向上するとされるもののVtAの欠乏症防止の注意が必要です。

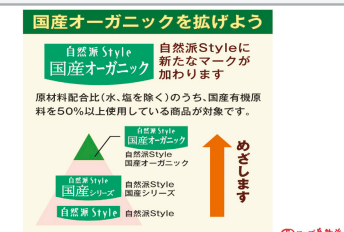
3.畜産技術807号(2022.8)…次号に掲載

肉用牛の肥育期間短縮のための給与方式(樋口幹人) ほか

資源循環型肉牛生産シンポジウム 2021

生活協同組合連合会 コープ自然派事業連合 商品部統括マネージャー 前田 陽一氏

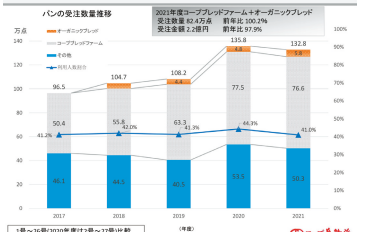
(7) 自然派Styleの拡大(国産派宣言の実践)



(8) 遺伝子組み換え食品、ゲノム編集食品反対

[illegible]

(10)コウノトリ育む米パン開発



(9) アニマルウェルフェアの取組

アニマルウェルフェア取組の経緯

2006年 田んぼの生きもの保護運動、動物の命を大事にする商品。
2010年 COP10、MOPs（生物多様性条約国会議）参加。
各生産者でアニマルウェルフェア取組がすすむ。
2014年 よつば生産者指定放牧豚産牛乳取組開始
2015年 →よつば放牧豚産北海道牛乳取組開始
2019年 AW取組者（畜産者）取組開始、自然豚豚寮訪問。
2020年 AW豚肉（自然豚）取組開始。各地で自然豚・食肉金賞。
自然豚キャンペーン目標100万頭、部位・ハラス確保。
2021年 自然豚キーンによる講演会。
→自然豚キーンが「自然豚産牛乳」をすすめる。自然豚畜産製品
（畜産生産者のAW牛（牛乳）について）
畜産生産者の肉の調理実演イベント実施。
6月大成茂氏による講演会、11月講演会、アニマルアワード
⇒コグロ自然豚のAW産牛乳へ（まだ自然豚豚寮）

よつ葉牛乳との産直

夏秋牛(7~10月分娩) 自給飼料 NONGM 生産者指定	反L(コラプ)牛・乳反L運動は生産者・メーカー・流通・消費者を結ぶ
72℃・15秒(ノンホモ・スチャイリス) 	85℃・15秒  120℃・2秒 

田んぼの生きもの調査米／環境創造米

[illegible]

2018年 北海道アンバサダー 2018.11.15~17

[illegible]

2018年 北海道アンバサダー 2018.11.15~17

[illegible]

2018年 北海道アンバサダー

[illegible]

転載・再利用は固くお断りします